

旬を食べる くナバナ

一菜の花と卵のオイスター炒め

春の訪れを伝えてくれるナバナ。一般的には菜の花と呼ばれています。本来は、アブラナの花を指していましたが、現在は、コマツナやチリメンハクサイなどの花をまとめて呼んでいます。食用は、花と、葉の付いている茎で、ほろ苦さと特有の香りがあります。

材料(4人分) 菜の花…1束
卵…3個 きくらげ(乾)…10g
ねぎ(みじん切り)…大さじ2
しょうが(みじん切り)…小さじ1/2 サラダ油 調味料②オイスターソース、酒、しょうゆ
：各大さじ1 塩・こしょう：少々 砂糖：小さじ1

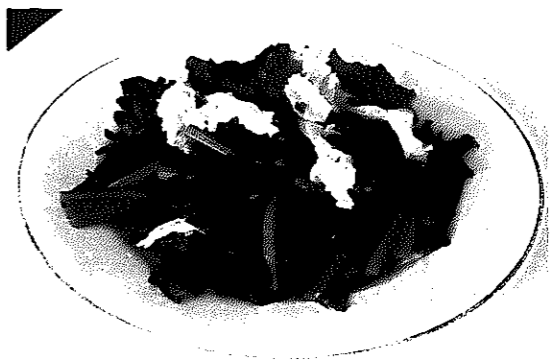
作り方

①菜の花は洗ってザク切りにし、ボールに卵を割りほぐし、塩・こしょう少々を混ぜておく。きくらげは水に戻し、一口大に切る。

②中華鍋を熱して、油大さじ1を入れ、卵を一度に流し込み、大きくかき混ぜ、半熟のいり卵にして取り出す。

③鍋に油を足して、塩少々を入れ、菜の花を入れて強火で炒め、湯1/2カップを加えてふたをする。煮立ったらざるに揚げ、水気を切る。

④鍋に油大さじ1を足し、ねぎ、しょうがを香り良く炒めきくらげを加える。菜の花を鍋に戻し調味料②をからめる。卵を戻し、ざつくりと混ぜ、器に盛る。



メモ ●菜の花の代わりに、青菜、さやえんどう、アスパラでもおいしくできます。
●牛肉またはエビを加えると、より、おいしくいただけます。
●豆腐を加えて、お総菜風にもアレンジできます。

市政知識

婚姻届

今月から新しく始まったこのコーナーは、市政に関するミニ知識をご紹介します。第一回目の今回は、婚姻届です。

婚姻届は、男性十八歳以上女性十六歳以上であれば、出すことができます。ただし、成人していない男女が婚姻の届け出をする場合には、親の同意が必要になります。婚姻届を出す、新たな戸籍が作られ、それまでの親の戸籍からは除かれることになり、これは、戸籍が夫婦とその子供という単位で作られているためです。

民登録している市町村に届け出ますが、それ以外の所でも提出することができます。例えば、D市の教会で挙式し、その日に婚姻届を出したいという場合には、D市で婚姻届を出すことができます。

また、婚姻届は、土曜・日曜日でも受け付けています。婚姻届には、証人が必要です。証人は、二十歳以上の人なら誰でもなることができます。

二人が同じA市に本籍があり、婚姻後も本籍地をA市に置く場合、A市に婚姻届だけを出せばよい訳です。夫になる人の本籍がA市に、妻になる人の本籍がB市にあって、新本籍地をA市に届け出する場合は、妻になる人の戸籍謄本または抄本を添えて提出しなければなりません。夫になる人の本籍地がA市、妻になる人の本籍地がB市、新しい本籍地をC市にする場合、夫、妻になる人はそれぞれの戸籍謄本または抄本を婚姻届に添えて提出しなければなりません。婚姻届は、一般的には本籍地、住

婚姻届		平成 年 月 日 届出	長 殿
受理 平成 年 月 日 第 号	発送 平成 年 月 日 第 号		
送付 平成 年 月 日 第 号	寄附調合	戸籍記載	記載調査
調査票	附 票	住 所	住 所
(よみかた) 夫 になる 人 妻 になる 人			
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
生 年 月 日	生 年 月 日	生 年 月 日	生 年 月 日
住 所	住 所	住 所	住 所
(住民登録をして いるところ)			
世帯主の氏名		世帯主の氏名	
住 所		住 所	

べえ風

(群馬県沼田市)



山間地域の風は少ないというのが、日本の風界の常識ですが、上州もその例に漏れず、現在風はほとんど存在しません。周辺を高い山に囲まれている沼田でも、往時には盛んに風が作られていました。角風の骨組みで下のほうがとがっている五角形です。一般には「剣風」と呼ばれていますが、上州では「べえ風」といいます。なぜこの名前が付けられたのかは分かっていません。

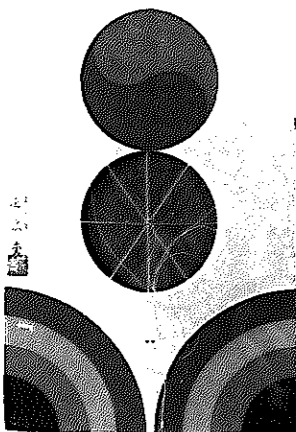
沼田に風屋はなく、まちの名人が風を作り、揚げていました。写真はべえ風の名人桑原仙佐衛門(一九四三年没)の風です。名物のからっ風を売り物にした風揚げ大会が、群馬県前橋市で二月中旬に開かれています。なぜか風揚げの日に、からっ風は吹いてくれません。

韓国風

(韓国)

日本の文化は、韓国経由で渡来したものがたくさんあります。風の一部も同じ経路で入ってきたと思われれます。韓国風は、長方形の風で中央に丸い穴があり、上下に文様や蝶などがデザインされています。鼻緒は三本が逆三角形に付いています。この風は、操縦性があります。糸切り合戦をします。三本の鼻緒なのに、なぜ上下左右に操縦することができるのか、考えると思わなくなっています。

天骨にピンピンが張られています。実はピンピンを張る風というのは、世界の風の中では少数派です。日本と韓国以外の風は、ほとんどピンピンがないのです。ただ、最近欧米でもピンピンを付けた風も目にするようになり、さすがに日本の風の影響です。



風博士

あなたも

文・田村和雄(しろね大風と歴史の館運営委員会委員長)